

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

<本年度の学力向上基本方針>

わかる、できる喜びを味わわせることを通じた基礎学力の向上

4月

学力向上目標①

市学習状況調査の国語または数学において、昨年度の本校の平均正答率よりも 1pt 以上向上させた値にする。

<目標達成に向けた学力向上策>

策1

城南中学校区取組の1つ「学びを繰り返し、定着させる」を軸にした授業実践。

開始期日

6月

具体的な手立て

- ① 定期テスト前1週間の期間に「朝の取組」として、授業で学習した内容を繰り返し演習したり、確認したり、質問ができる場を設ける。
 - ・実施教科は5教科とし、事前に取り組内容を予告するプリントを配付する。これにより、定期テストを1つの目標として、生徒自身が計画的に学習を進められるようにする。さらに、複数回の繰り返しにより、学習内容の特に重要な部分をより意識できるようにする。
- ② 各教科の特性に応じて、宿題やミニプリントの配付やミニテストを実施し、家庭学習の機会づくりを積極的に行う。

8月

本年度の振り返り

- ・学校全体で定期テスト前に「朝の取組」を実施し、基礎的・基本的な内容にくり返し取り組める場を設けることができた。生徒自身も重点的に学習すべきことを判断し、定期テストに向けて繰り返し演習に取り組むことができた。
- ・各学年、教科の特性に応じて、宿題やプリントの配付、ミニテストを実施した。その中で、生徒の学びの定着具合を確認し、生徒にフィードバックすることができた。
- ・「学びの繰り返し」を続けたことで、生徒が自主的に学習に取り組む姿を年度当初よりも多く見られるようになった。

達成度

%

2月

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

4月

学力向上目標②

「よい授業」全校調査の因子2「基礎アップ」の項目について、本校の昨年度より1pt向上させた値にすることを旨とする。

<目標達成に向けた学力向上策>

策1

「よい授業」全校調査の因子2「基礎アップ」の項目に重点をおいた校内研修の充実

開始期日

5月

具体的な手立て

- ①教員間で実施する「授業参観週間」の実施を通じた、授業実践の共有と意見交換の場の設定。
 - ・各学期に1回「授業参観週間」を実施する。
 - ・「よい授業」因子2「基礎アップ」に重点をおいた授業を実施し、また授業を参観する側もその点に着目した見方をする。
 - ・授業者・参観者共に因子2の要素がわかりやすいように「授業参観記録用紙」をつかって授業についての意見交換を行う。
- ②小・中合同で設定した中学校区の3つの取組「既習事項の掲示」「小さな伸びを認める」「学びのくり返し」の実践。
 - ・掲示物や校内研修で、因子2と3つの取組の関係の周知を図る。
 - ・「よい授業」因子2「基礎アップ」につながる城南中学校区の3つの取組の一層の実践をはかる。
- ③「基礎アップ」の足掛かりを得るための学力向上カウンセリング訪問研修の実施

8月

2月

本年度の振り返り

- ・2、3学期に因子2を軸とした「授業参観週間」を実施し、各教科、各教員の取組を、「授業参観記録用紙」を教材フォルダにアップし共有することができた。また実施したことで、授業や学習指導に対する情報交換が活性化された。
- ・校内研修や掲示物などで中学校区の取組の周知を図ることができ、学年フロアなどをつかった既習事項の掲示物が増えた。
- ・学力向上カウンセリング訪問研修は、少人数で参加し、後日全職員に周知する形で実施することができ、小・中連携をテーマにして話を深めることができた。
- ・今年度、教育活動や授業時数に制限があったが、「よい授業」全校調査の因子②の項目は昨年度とほぼ同じポイントにとどまった。

達成度

%

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント